

災害応援要請その時建設業は



昨年9月15日未明から16日早朝にかけ、京都府、滋賀県、福井県で甚大な被害をもたらした台風18号。建設業の現場では、「家族の無事を楽しみ、警報が出れば仕事場という城を守るため、現場に誰かが駆けつけ待機するのが当たり前の世界」だという。しかし16日午前5時5分、3府県を対象に気象庁が初の大雨特別警報を発令。「直ちに命を守る行動を」とのメディアからのアナウンスや緊急メールが交錯する中、近畿地方整備局や京都府、基礎自治体等からの災害協定に基づく緊急応援要請により多数の府建設業協会や京都土木協会などの会員企業が出動した。正確には厳しい自然環境ながらも15日未明からすでに出勤していた会員もいる。初動9日間で緊急対応したのは会員企業100社、作業員1000人を超え、建設機械200台、ダンプトラック300台を雄に上回った。

大切な家族、大事な現場を楽しみながらも、誰よりも早く被災そのまの現場に駆けつけ、二次被害の危険をはらむ崩落・流出土砂除去による道路啓開、土のう積、倒木撤去などに立ち向かう建設業の技術者や作業員。突き動かすものは使命感や誇り、それとも昔から脈々として継承され続ける現場魂なのか。出勤した技術者の話を交え検証する。



突き動かす「現場魂」

初動9日間で作業員延べ1000人超

「大切な家族・大事な現場」案じて

府南丹土木事務所長談 復旧作業で「地域精通」評価

京都府からの災害時における緊急応援要請は、一昨年の府南部を局地的に襲った豪雨災害に続くもの。台風18号では被害範囲が府全域に拡大。府が管轄する道路や河川で出動要請したのは、台風が迫り来る9月15日未明、丹後土木事務所管内の広範囲で崩土除去や倒木処分、看板設置等に対して建設業協会宮津支部、京丹後支部が作業に着手。



土木管内で福知山支部と舞鶴支部が土砂除去や被災現地調査・報告。17日には、山城南土木管内の国道道路崩壊箇所復旧で相楽支部。また一級河川園部川と本梅川の堤防欠損など被害が大きかった南丹土木管内で南丹建設業協議会。

20日には、山城北土木管内で河川護岸決壊や堆積土砂撤去に姫喜支部。10月1日、京都土木管内で堆積土砂除去のため鴨川に京都支部、橋本公園他に京都土木協会の会員が出動(以上、京都府調べ)。

近畿地方整備局・出先事務所では16日に由良川、国道175号で福知山支部、鴨川・桂川や国道1号逢坂山で京都支部が、復旧初動対応した。

「15日未明からは、かなりの暴風雨でした。小野氏「台風が徐々に接近し、京都を含め大雨特別警報が出たときに天ヶ瀬ダムの現場に着きました。来るまでに何か所かで土砂崩れが発生していましたが、状況を見て行けるという判断で道路脇を通過して、ようやく着いたという感じでした」

「現場は大丈夫だったのですか」
小野氏「来てみれば、川が増水していて裏山が崩れている。激しい暴風雨だったので、現場事務所(淀川水系、志津川の宇治市志津川浄化センター)でも流されるかもという話をしていたのを覚えています。何が起ころうかおかしな状況でしたから」

■警報発令
「身体は現場」
被災現場に駆けつけ初動活動を展開した1人、府建設業協会の古瀬組で取締役技術部長の小野彰良氏に話を聞くことができた。小野氏は、近畿地方整備局京都府事務所からの出動要請を受け、国道1号逢坂山の大量の沢水による土砂流出現場で除去作業に当たった。

「出動要請を受けられたときの状況から教えてくださいませんか」
小野氏「建設業では、みんなそれぞれ工事現場を持ち、台風など現場で何か問題が起こる可能性があると誰かが駆けつけ、待機するというのがあって、それが生計を立てている以上は、まずは自分達の大事な現場を見に行かなければという気持ちで走ります」

「じゃ、協定に基づく出動要請が来る前に現場で待機して居られたんですか」
小野氏「台風が近畿に接近して来ている夜中の3時からメールがたっさん入ってきたので、大変な状況だなと感じ、家族に「現場に行ってくる」といって出ました。家族は何より大切な者だということと判っているけど、現場に行くのは良いけど、家は良いの?」って思っているんですよ」

「つらい状況ですね」
小野氏「大なり小なり現場を持つ人たちは、その時に置かれている立場の中で警報が出れば、とりあえず現場を見に行く。今回は、大雨特別警報という中で連絡が入ってきたという状況でした」

「その後はどうされたんですか」
小野氏「会社として、当然のことながら施工中の他の現場の状況を確認する。その中で現場が無事で動ける人、祭日(敬老の日)で自宅にいる者も連絡が付いて出動が可能であるなら出てきてくれというところで呼び出して人員を集めました」

「祭日と暴風雨が重なって自宅であると、現場にいたから良かったんですね」
小野氏「人員は集められたけど、国交省担当者からの連絡でバックホウと覆工板とか桁を持って来れないかという話でした。急に建設機械や資機材などモノを持って来いといわれても、残っている機材はあるものの祭日で建機リース屋さんも閉まっていますからね」

—ドキュメント—

未だ記憶だけでなく残存する昨年の台風18号の爪痕。府内広範囲で総雨量200mmを超え、由良川と桂川の上流域では総雨量400mmを記録するなど、昭和28年水害(台風13号)に匹敵する記録的な豪雨に見舞われた。

由良川では観測史上最高水位8.3mを記録。氾濫・越水により私市地区や戸田地区など3855戸、2303haが浸水した。淀川水系では観光地である嵐山の風物詩、桂川の遊月橋の橋面を洪水が乗り越え、中之島を始め周辺の旅館など93戸で甚大な浸水被害に陥った。亀岡市では請田地区だけでなく桂川の露堤から広がった浸水は、JR山崎線を越え亀岡駅周辺にまで達したほどだ。

また、鴨川では溢水、木津川や由良川の水位上昇により大谷川や弘法川流域で内水、伏見区にある小栗橋排水機場のポンプ停止で290戸の浸水被害も発生。このほか、陸上交通の大動脈である国道1号の逢坂山が大量の沢水による土砂流出で16日午前1時10分に通行止め。安祥寺川の氾濫では、京阪京津線の線路に周辺雨水と合流しながら流入し、市営地下鉄東西線の御陵(みささぎ)駅が冠水したことから烏丸御池~小野駅間が運休。府内各地で交通機関にも大きなダメージを与えた。

昨年11月19日時点での被害状況は、幸いにも死者は無かったものの重傷者2人、軽傷者4人となる人的被害が発生。建物被害は全壊4戸、半壊397戸、浸水は住宅で床上1993戸、床下3352戸に上る甚大な被害をもたらす、停電や断水などライフラインにも大きく影響。府北部域では、49集落が一時孤立する状況にも陥った。

台風18号・初の大雨特別警報



受け継がれる血脈

■復旧作業 「昼夜を問わず」

「向かわれた被災場所が国道1号の逢坂山というところでしたが、小野氏「出動要請が来た以上、頭の中では山の斜面の土砂が崩れて国道1号に散乱もしくは1車線ぐらいいがアウトなのかなと想像していました。現地に着いた時には、大量の沢水と土砂が民家の脇を流れて国道1号だけを流れて、越えて京阪電車の線路まで埋まっている状態。びっくりしたというのが正直なところでした」

「危険な状態では無かったですか」
小野氏「山から沢水は流れていきましたが、台風が過ぎ去って晴れて来ていたので2次災害の危険を及ぼす雨がない今、作業に掛かろうとしてたんです。雨が降り止まなければ、やはり危険性があるので待機しようと思ったかもしないです」

「作業の進み具合はどうだったんですか」
小野氏「出動は京都国道事務所から要請があったのですが、現場には滋賀国道事務所の担当者も居られ、国道に進入できるような状況に指示を出された。現場の状況から、水や土砂の流出元である山の側から作業をしなければならぬと判断してバックホウで土砂を除去させようとしたんですが、道路啓開優先という再度の指示で作業を国道に集中させました。うちと同じように京都国道からの要請で、府内業者4社程が順に集まり、車道部分やガードレール部分など



■周辺大渋滞で教訓

「今回の台風災害における出動で何か感じられたことはありますか」
小野氏「建設業の現場にいる人間で有れば、一つの作業状況を見たとき、人員や機械など必要な大枠の想像がつかず、人命とか一刻を争う状況でない場合、極力タイムロス無く復旧作業を行うには、如何に現場に適した資機材を確保し配置するかだと思っております。ただ今回は運休であり深夜から何カ所も災害が発生する状態の中で、想定外ということはあるでしょうけど、現場の把握と的確な指示の重要性を感じたのは確かです」

「なにか教訓となったことは」
小野氏「土砂を撤出するためダンプに積み込み、指示された捨て場まで送り出しても大規模な渋滞で帰って来られない。初動で手配したもののでは足らず、追ってダンプや重機を追加確保とい

「今回の大渋滞で教訓として何か感じられたことはありますか」
小野氏「建設業の現場にいる人間で有れば、一つの作業状況を見たとき、人員や機械など必要な大枠の想像がつかず、人命とか一刻を争う状況でない場合、極力タイムロス無く復旧作業を行うには、如何に現場に適した資機材を確保し配置するかだと思っております。ただ今回は運休であり深夜から何カ所も災害が発生する状態の中で、想定外ということはあるでしょうけど、現場の把握と的確な指示の重要性を感じたのは確かです」

「災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて」
「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」
小野氏「出動要請を受け準備し、大渋滞のなか何十時間も掛かって現場まで来られた業者さんもいました。どんな苦しい状況であっても、人員を集めて駆けつけるという建設業の気持ちは、大災害時には自衛隊や消防が人命救助できる



「災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて」
「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」
小野氏「出動要請を受け準備し、大渋滞のなか何十時間も掛かって現場まで来られた業者さんもいました。どんな苦しい状況であっても、人員を集めて駆けつけるという建設業の気持ちは、大災害時には自衛隊や消防が人命救助できる

「災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて」
「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」
小野氏「出動要請を受け準備し、大渋滞のなか何十時間も掛かって現場まで来られた業者さんもいました。どんな苦しい状況であっても、人員を集めて駆けつけるという建設業の気持ちは、大災害時には自衛隊や消防が人命救助できる

「災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて」
「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」
小野氏「出動要請を受け準備し、大渋滞のなか何十時間も掛かって現場まで来られた業者さんもいました。どんな苦しい状況であっても、人員を集めて駆けつけるという建設業の気持ちは、大災害時には自衛隊や消防が人命救助できる

「災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて」
「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」
小野氏「出動要請を受け準備し、大渋滞のなか何十時間も掛かって現場まで来られた業者さんもいました。どんな苦しい状況であっても、人員を集めて駆けつけるという建設業の気持ちは、大災害時には自衛隊や消防が人命救助できる

「お疲れの所、ありがとうございました」

■災害時の現場力「真髄」 建設業 少しは認めて

「建設業の真髄というものが、ものづくりを担う現場人の本質の姿を広く知って欲しいです」

「お疲れの所、ありがとうございました」

「お疲れの所、ありがとうございました」